

未来を切り拓く力に～佐賀大会を終えて～

全国公立学校教頭会 会長 長谷川 右

2日間にわたる オンラインでの研究大会はいかがでしたか。慣れない環境でお疲れになったのではないかと思います。本大会が充実した大会になりましたのも、小川実行委員長様をはじめとする佐賀県の教頭先生方、関係者の皆様方が、大会の準備から本日までの運営に際し、より良い大会にとの「熱い思い」でお取り組みいただいた賜物です。

それは、まさに幕末から明治の時代に、新しい国家の形成をリードした先人たちが、当時においては最新の科学技術を導入し、その「志」を継承していった、そのことに通じると実感できた全国大会でした。心より感謝申し上げます。

また、ご参会いただいた副校長・教頭先生方におかれましては、ご多用の中、約2,000名の皆様にお集まりいただきました。皆様方にもご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

さて、この大会において1日目の記念講演では、演題を「組織を活かすマネジメント」として、講師の緒方孝市様の実体験を基に大変興味深い内容でご講話いただきました。午後のシンポジウムでは、「高い志 豊かな心 切り拓く未来」をテーマに、各シンポジストの先生方が話し合いを深められました。いずれも、副校長・教頭として学校教育力の向上につながるヒントを学ぶことができました。

今回の講演やシンポジウムの内容を是非、皆様の単位教頭会の先生方にお伝えください。

「知の共有」を図ることにより、全国の先生方にそしてそれが全国の公立小中学校の子供たちの成長に活かされるならば、本来の目的を達成できたといえます。

2日目の分科会では、全国の仲間との積極的な情報交換から協議にいたるまで、熱のこもった話し合いが展開されました。昨年の岡山大会では実現できなかった分科会での活発な研究協議が、オンラインという形で実現できたことは、「コロナ禍にあってもできることをやる」という、まさにGIGAスクール構想で苦勞されているところではありますが、学校現場と同じだと感じています。失敗をおそれず慣れていくことが大切です。

さて今回の佐賀大会は、副校長・教頭にとって、たいへん有意義な内容で、多くのことを学ぶことができたと思います。普段は、会えない日本中の先生方とオンラインでのディスカッションはいかがでしたか？画面越しではありますが、ぜひこのご縁を大切にしてください。

私は、大学生の時に剣道部の先生に勧められ、「葉隠」を読みました。当時の私は「武士道というのは死ぬことと見つけたり」が「武士道」だと間違った捉え方をしていました。諸説有りますが、「常に生死に関わらず、正しい決断・判断をすること」であると後に気付きました。

コロナ禍にあって、この一つの会を成功に導くためには、細かく分かれた一つ一つの係をそれぞれの先生方が強い志でまた強い絆で、小川実行委員長を中心に実行されました。それも、開催の方法を再検討し決定した、5ヶ月前からです。今年度に入ってから、教頭先生方が、ご自身の教頭職の仕事に加えて、この大会に向け、力を注いでくださいました。佐賀の教頭先生方の組織力は、まさに「武士道」ではないでしょうか。

今回の大会が「全公教モデル」として、全国に先駆けた大会になったと感じております。

オンラインで参加されている皆様、小川実行委員長様をはじめ佐賀県の教頭先生方に感謝の気持ちを思う存分に込めて、拍手を送りましょう。ありがとうございました。

全国からお集まりいただいた皆さん。皆さんには、全国に約28,000人の仲間がいます。皆で力を合わせて日本の教育を支えていきましょう。それが「未来を切り拓く力」を作り出します。結びになります。本研究大会を皮切りに、全国の各ブロック研究大会、各単位教頭会の研究大会が、ますます充実したものとなりますよう、また、本大会にご参会いただいた皆様の、ますますのご活躍とご健勝を祈念いたします。

2日間、本当にありがとうございました。